



# 園だより かけはし

キッドワールドこども園  
令和6年5月1日

新年度がスタートして、早くも1か月経ちました。はじめのうちは、新しい環境に慣れず不安な表情を浮かべる子どもの姿が見られましたが、気持ちが切り替わるように園庭に誘ったり、虫取り網をもって一緒に虫探しをしたり、一人一人と向き合うように関りを持ったりすることで、今では笑顔も増え、「先生、おはよう」と元気よく挨拶をして登園する子どもたちが増えてきました。これからも、子どもたちが「今日もキッドワールドこども園にいきたい」と思い、毎日笑顔で登園できるよう子どもたちと関わっていきたいと思います。

また、5月には、保護者面談が始まります。家庭での姿や園での姿など伝え合い、連携をしっかりとって、安心して頂くことのできる園を目指していきたいと思います。

## 行事予定

日	曜日	園児に関すること
7	火	身体計測(4歳児)
8	水	身体計測(5歳児)
9	木	身体計測(3歳児)、Kids English
10	金	お見知り遠足(3~5歳児)・弁当日
14	火	身体計測(めろん組)、歯科検診(3~5歳児)
15	水	身体計測(ぶどう組)
16	木	身体計測(1歳児 Bクラス)、健康診断 Kids English
17	金	身体計測(1歳児 Aクラス)
21	火	避難訓練
22	水	身体計測(0歳児)
23	木	Kids English
24	水	誕生会
28	火	歯科検診(0~2歳児) 環境整備産業見学(5歳児)
30	木	Kids English

### 弁当日について

当園で「弁当日」を設けている意味として「食育」を推進する考えがあります。

食べることは生きる上で大きな役割を担っており、子どもにとって発育や発達に欠かせないものとなっています。

また、こども園でも食に興味や関心が持てるように、プランターや畑を使って栽培したものを給食やクッキングなどで提供しています。

また、管理栄養士が子どもたちに三色食品群の話をしたり、クラスを回って食事の様子などもみて回ったりしています。

お弁当を作ることは大変かと思いますが、お子さんが宝箱の蓋を開けるように目を輝かしている姿を思い浮かべながら作っていただけたらと思います。

## お知らせ・お願い

- ※ 5月の弁当日は、10日(金)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。
- ※ 5月の保育料の納入期間は、22日(水)・23日(木)・24日(金)の3日間です。  
(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)

## メディアと子どもの生活

キッドワールドこども園特別指導顧問 山崎 富美子

生活発表会の後、I君を抱きかかえて、何度も何度も「たかいたかーい」をするI君のお父さんを見つけました。I君がいつも笑顔なのは、「これだな」と思えた瞬間でした。しかし、皆さんから見れば子どもとの関わりの一コマかもしれませんが、現代の社会において、必ずしもそうとは限りません。中には、「笑顔を失い、泣かない、視線が合わない」というような「サイレントベビー」とよばれる赤ちゃんもいるのです。

この原因としては、長時間の映像メディアとの接触による脳への影響が考えられています。長時間の映像メディアとの接触が言語能力の低下につながっているというのです。さらに、メディアの影響を受けた子どもたちは、レベルを逸脱した暴力や残酷ないじめをするようになると言われています。ですが、現時点では、このことに医学的根拠はありません。以前、園だより(令和5年度1月号)で「子どもの脳と発達と心の育ち」の記事を思いました。せっかくの機会です。ここで少し「メディアが子どもの育ちにどのように影響を与えているのか」ということについて考えてみたいと思います。

人間は、「光るもの、動くもの、音がするもの」が気になるという本能を持っています。テレビや、ゲームに接するときの脳は、笑顔、言葉、感性を司り、「考える、集中する」など人間として大切な前の脳(前頭葉)は、活動していません。見ることに特化した後ろの脳(後頭葉)が活動しているのです。これは前頭葉のない蛇や蛙と同じような状態で、ただ興奮しているだけなのです。

ゲームやテレビは、自分の脳から、アドレナリンとドーパミンを分泌させ、興奮と恍惚感を体験させます。しかし、ホルモン効果が切れると今度はイライラが起り、麻薬中毒と同じようにゲームに舞い戻ります。暴力的な事件の背後には、「〇〇マン」「〇〇パンチ」のように「問題解決は、暴力で」という解決方法を使ってしまう現代人の傾向があります。つまり、アニメやゲームを繰り返し見ることで、乗り越えがたい問題にぶつかった時に言葉によるコミュニケーションではなく、暴力という手段を選択するという行動が形成されてしまっているのです。

そのような中で、現実世界と仮想世界の境界線が消え、命ある者が死んでも生き返ると思い簡単に人の命を奪うという反社会的な事件もしばしば起こってしまうのです。このようなことを防ぐには、テレビを見る時間や、ゲームで遊ぶ時の目安を立てることが必要になります。ゲームをすると、前頭葉の活動が鈍くなるので、「嫌なことを考えなくてすむ」「気分転換できる」と言われています。しかし15分もすると「やめても前頭葉の活動は、再開しない」と脳科学者の川島隆太さんは、言っているのです。

「生まれてきてよかった。愛されている。生きていていい。」という人間としての基本的な自尊心、自己肯定感は、「君が生まれてきて、パパはとっても幸せだよ。」という温かいまなざしの中で、笑顔と言葉のシャワーを浴びてこそ形成されます。人間の命の大切さは、身近な大人、家族とまなざしを交し合っこそ、会話や遊びの中で育っていくのです。

テレビを消して、スマホを隠して、子どもと一緒に遊びましょう。遊び方が分からないという方は、クラス担任に聞いてみましょう。きっといいヒントがもらえると思いますよ。

参考文献 『メディアにむしばまれる子どもたち』(教文館)

今回の「メディアと子どもの生活」について、色々と考えさせられることが多くありました。メディアが子どもの育ちに与える影響力の恐ろしさを改めて強く感じました。

テレビやゲームでは、一方的な情報発信でしかなく、コミュニケーションを取ることができません。つまり、相手の気持ちや表情を感じ取ることができないのです。友だちと関わる際は、相手に伝わるように言葉を選んだり、相手の思いに立って物事を考えたりしますが、一方的な情報になるとその気持ちの部分伝わらなくなります。それは、コミュニケーション能力の低下にもつながってきます。

だからこそ、子育てをメディアにさせるのではなく、親子での関りを深めることで表情豊かな子どもに育つのではないかと思います。このGWIに、休みの方やお仕事の方もいるかと思いますが、親子での時間の使い方を見直してみてもうでしょうか。

園長 高津 宏晃